

連携協働通信「架け橋」

令和5年8月24日

横浜市教育委員会 学校支援・地域連携課 発行 NO. 33

各学校や地域における地域学校協働活動の推進を目的に、地域と学校の連携・協働に関する情報を発信する連携協働通信「架け橋」を発行しています。当課のWebサイトでもご覧いただけます。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/chikirenkei/gakkoushien.html>

学校運営協議会の設置について

各学校の校長・副校長におかれましては、学校運営協議会の運営や設置についてご尽力いただき本当にありがとうございます。**令和5年7月時点で495校**に学校運営協議会が設置されています。**今回、10月の設置申請が令和5年度の最後の設置申請の機会**になります。設置申請に向けて**8月中に設置申請書類と委員名簿の提出**をお願いいたします。

(様式はY-CAN 学校支援・地域連携課のページに掲載)

設置に向けた地域との調整や委員の選定、既存の組織の運用など様々な部分において、意識の醸成に時間が必要という学校においては、設置に関する相談や、地域の方・委員になられる方に対する説明などを学校支援・地域連携課が行うことも可能です。その場合はご相談に応じますので、ご連絡をいただきますよう、よろしくお願いいたします。各校において持続可能な活動となるよう研修等も行い、役割や制度について周知していく予定です。ぜひ協議会委員の方や教職員の方々にも研修の参加について、お伝えいただきたいと考えています。

学校運営協議会の10月設置について

学校運営協議会 設置の機会	
設置日	令和5年10月1日
申請書提出の締切日	8月中

○申請の際は、設置申請書と名簿を合わせてご提出をお願いします。(YCANに掲載)

※新規設置校については、第一回の学校運営協議会の際に教育委員会事務局から学校運営協議会委員の方々に委嘱状をお渡しさせていただきますので、開催日時が決まりましたらお知らせください。

※学校運営協議会委員の方々に制度の説明や役割等をご説明させていただくことも可能です。その際は、学校支援・地域連携課がご説明に伺いますので、ご連絡をお願いします。

社会に開かれた教育課程の実現に向けて

第4期 横浜市教育振興基本計画

計画期間:令和4年度～令和7年度

【柱5 家庭・地域等の多様な主体との連携・協働】
（施策1） 多様な主体とつながる教育の充実

◆施策の目標・方向性

子どもに関する課題や学校の課題の解決と未来を担う子どもたちの豊かな成長のために、学校が地域（地域住民、保護者、企業、大学等の様々な個人・団体）と連携・協働することにより、子どもたちが社会とつながる機会を創出し、子どもの学びや育ちを支えます。

【学校運営協議会 と地域学校協働活動の
一体的な推進による地域と学校の連携・協働】

今回、第4期横浜市教育振興基本計画の中で【家庭・地域等の多様な主体との連携・協働】というテーマのもと柱が建てられ、目標や方向性も示されています。すでに多くの学校で学校運営協議会や学校・地域コーディネーターを中心とした地域学校協働本部が立ち上がっています。

社会に開かれた教育課程を実現していくために、各学校においては既に学校運営協議会や地域学校協働本部を学校、家庭、地域をつなぐ有効なツールとして効果的に運用いただいていることと思います。

引き続き、学校運営協議会委員の方々や学校・地域コーディネーターの方々とのコミュニケーションをとりながら連携を進めていただきたいという事と同時に学校教職員の方々にも学校運営協議会や学校・地域コーディネーターの役割や存在を周知していただきたいと考えております。引き続きよろしくお願いいたします。

学校・地域コーディネーター養成講座① 報告

今年度の学校・地域コーディネーター養成講座がスタートしました。

教育委員会事務局からは、学校支援・地域連携課より「地域とともに子どもを育む学校づくり」について説明しました。なぜ、連携・協働する必要があるのか？学校・地域コーディネーターは何をすればよいのか？地域学校協働活動はどのように進めればよいのか？など、学校・地域コーディネーターの役割と意義について基本的な事項をお伝えしました。

また、人権教育・児童生徒課より「子どもの人権」についての説明をしました。横浜市の人権教育について、いじめの定義や横浜市いじめ防止基本方針の確認や、事例演習などを行いました。「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校・まちをめざして、人とのつながりから学び自分も他の人も大切にできる子どもの育成のために大切なことをお伝えしました。



講師の横浜市学校・地域コーディネーター連絡会 高橋由美子氏からは、昔と今の違い（子どもたちの遊びや私たちの生活の変化）や、学校・地域コーディネーターとは？地域学校協働活動とは？など、参加者同士の対話を通して考えていくことができるよう講義をしていただきました。全5回の研修を通して、学校・地域コーディネーターについての理解を深めていくことができるよう、引き続き研修を進めてまいります。



学校・地域コーディネーター養成講座② 報告

第二回の学校・地域コーディネーター養成講座では、学校運営協議会についての制度理解や委員としての役割について、教育委員会事務局より説明を行いました。地域学校協働本部の具体的な活動事例として、新井中学校、幸ヶ谷小学校、茅ヶ崎東小学校・茅ヶ崎中学校の活動についての動画を紹介しました。

新井中学校

- ・地域学校協働本部「A.S.C.C.」として、キャリア教育の支援、放課後学習支援、地域の文化スポーツクラブ運営などを行っている。
- ・地域としてできることを企画提案し、その中から学校のニーズに合わせて形を変えて活動している。

茅ヶ崎東小学校・茅ヶ崎中学校

- ・小学校では、登下校の見守り、学習支援、読み聞かせなど、中学校では、キャリア教育、放課後学び場、学校の環境整備などを行っている。
- ・小学校と中学校を兼任することの利点は「地域で育つ子どもたちを9年間継続してサポートできる」など。

幸ヶ谷小学校

- ・学習サポート部門、読書サポート部門（ブックママ）、安全見守り部門、栽培緑化環境部門が学校からの要請に従い、年間を通して活動。
- ・学校と協働のイベント「ハッピー&スマイルデー」「ハッピーサタデー土曜講座」を実施。

ち いきと が っこうが さ さえあい き ずいていく

茅ヶ崎東小学校と
茅ヶ崎中学校での取組み
～兼任の立場から～

茅ヶ崎東小学校・茅ヶ崎中学校 学校・地域コーディネーター 足立重矢子

その後、学校運営協議会に関することや、学校・地域コーディネーターとして活動していくにあたり疑問に思うことなどをグループで共有しました。各グループの代表として選出された質問者が、記者になり切って教育委員会事務局や講師に疑問をぶつけ、回答を聞く、「ミート・ザ・プレス」という手法を活用したインタビュー形式のワークを行いました。



実際の質問と回答をいくつか紹介します。

Q：「学校・地域コーディネーターとして適任の方は？」

A：「今ここにいらっしゃる、熱意をもって取り組んでくださる皆様。学校のニーズを理解して活動できる方。」

Q：「学校運営協議会、地域学校協働本部について、教職員の認知を高めるには？」

A：「管理職、教職員向けの研修の実施、HPでの周知等を引き続き行っていく。」

Q：「担い手不足については、どう解決すればよい？」

A：「無理なくできる持続可能な活動を。次代の人に繋いでいくため、負担感のない活動にスイッチしていく。」

Q：「地域と学校をつなぐ、よい関係を保つ秘訣は？」

A：「学校に案を持ち込んでも難しそうな場合は一歩引くことも必要。感触がよくない場合は別のタイミングで。」

Q：「学校・地域コーディネーターとしてのモチベーションを維持していくためには？」

A：「よく寝る、よく食べる。無理をしない。おしゃべりをする。家族の理解を得る。仲間を増やす。…など。」

その他、「地域学校協働本部の予算で使えるものは？」「地域の方の得意なことを知るには？」「地域の方との連絡のしかたは？」「ボランティアの募集方法は？」「PTAの活動と重なる場合は？」「学校運営協議会からの意見書で実現したものは？」「学校運営協議会で話し合った内容の共有方法は？」「管理職、教職員とのコミュニケーションをとるには？」など、様々な質問に対しては、学校・地域コーディネーター、教育委員会事務局、元管理職、教職員等の立場から具体的な事例をもとに回答させていただきました。参加者の皆様は、積極的に発言したり熱心に耳を傾けたりしながら、それぞれ学校運営協議会や地域学校協働本部の活動について理解を深めていました。

研修の振り返り

- ・自分で思いつかなかった疑問なども多数あり、とても有意義な時間となった。
- ・求められているニーズが知りたいので、早く校長先生と話したいと思った。
- ・それぞれの立場を理解し話し合うことが大切だと考えさせられた。
- ・それぞれの時点での悩みの差を知ることができ、勉強になった。
- ・質問と回答を通して具体的な活動が想像できた。
- ・インプットとアウトプットの両方ができて良かった。
- ・学校と地域をよく知ることから始めようと思った。
- ・研修以外でも交流の場を提供してほしい。



地域と学校の連携・協働による学校運営の改善研修②

6/28、7/7 に地域と学校の連携・協働による学校運営の改善研修を実施しました。

今回は、学校運営協議会会長や委員の方々、学校・地域コーディネーター、教職員を対象にした研修を行いました。講師には元東山田中学校の校長、現東山田中学校学校運営協議会の副会長を担っている平野真理子氏を招き、ご講演をいただきました。

平野氏から、東山田中学校の学校運営協議会ではテーマ（キャリア教育・防災教育・特別支援教育・部活動 等々）に基づいて、**熟議を繰り返し行っていること**、

やまたろう本部（地域学校協働本部）では

①コミュニティカレンダーの作成と配布（情報を共有するツール）

②ホームページの作成・運営（学校と地域をつなぐホームページ）

③ボランティアのコーディネート

- ・キャリア教育の補助（連絡・調整・資料整理等）
- ・授業支援（調理実習支援、赤ちゃん体験補助など）
- ・ボランティア研修、企画運営、ボランティアハンドブックの作成

④日曜や放課後の学習会

⑤ワクワク防災キャンプの企画・運営

⑥「まちのたから」を学びに生かす9年間 まちのたからMAP の取組
を行っていることについてご紹介いただきました。

また**学校長としての立場では、「思いを本音で話すこと」**を大切にし、教職員を含めた学校に関わる方々との懇談を大切にし、子どもたちとの懇談も積極的に行っていました。

運営協議会委員としては、子どもたちのために何ができるか本気で考え、多くの方々とふれあい、その思い（本音）を聞きだすこと。共感・激励・アドバイス・具体的支援（キャリア教育ボランティア）を通して、支えとなるということをお大事にしているという話がありました。

平野氏の講演を通して、学校を含めたそれぞれの立場に関わる人たちが本音で思いや考えを伝えあうことが大切であるという事を改めて感じました。

今回の研修には、2日間で約200人に参加いただきました。今後も参加者の対象を分けた研修を企画し、各学校の実践例や好事例等を引き続き発信していくとともに、教育委員会事務局としても正しい制度理解や地域と学校の連携協働に関わる人の役割等を伝え、周知をしていきたいと考えています。

引き続きよろしくお願いたします。

研修の振り返り

- ・優れた実践事例を聞かせていただいたことにより、学校運営協議会がより有意義なものにできるヒントを得ることができた。
- ・「思いを本音で話す」ことができる距離感で、厳しめな意見でも隠さず臆せず話すことが、児童生徒たちの、学校の、地域のためになるのだと感じた。
- ・社会に開かれた教育課程のためには、学校運営協議会がとても大切であることを知った。
- ・校長、委員の立場からの実際のお話を伺いながら、本校の場合の取組イメージをもつことができたので、満足している。
- ・形式に縛られた方法ではなく、地域や保護者のために柔軟な意義ある運営にすべきである。
- ・地域と学校が連携して子どもたちを育てていくことについて、今まで研修を受けたことがなかったが、活動の意義を実感することができた。



今年度の研修のお知らせ

学校運営協議会委員及び学校・地域コーディネーター及び教職員合同研修

学校運営協議会委員、学校・地域コーディネーター、教職員を対象に研修を行います。
ぜひ、学校運営協議会等で対象の方々にお声掛けください。

1 日時及び会場

	日 時	会 場
1	10月25日(水) 15:00～	花咲研修室
2	10月31日(火) 15:00～	花咲研修室

2 内 容

○実践校（上菅田笹の丘小学校、六浦中学校むつうら教育支援本部）による事例発表

○グループでの情報交換

※詳細は今後、発出する通知でご確認ください

地域と学校の連携・協働による学校運営の改善研修

教職員を対象に研修を行います。教職員の方々にも地域と学校の連携・協働について知っていただきたいと考えています。ぜひ地域連携の担当教職員など対象者への周知をお願いいたします。

※本研修は教職員育成課の教育課題研修と兼ねています。

1 日時及び会場

	日 時	会 場
1	11月14日(火) 15:00～	花咲研修室
2	11月22日(水) 15:00～	花咲研修室

2 内 容

○認定 NPO 法人こまちぷらす理事長 森 祐美子 氏の講義を予定しています。

○グループワーク

※詳細は今後、発出する通知でご確認ください

引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。
学校支援・地域連携課 671-3278